

朝鮮石人像を訪ねて（35）

深田 晃二

★ 济州島の石人 ★

濟州島には朝鮮半島で見かける形の石人像は無く、トルハルバン（街の入口などに立てられ守護神）、



トルハルバン



法首（村やお寺の里程標）、童子像（墓に建てられる）などがある。

ところが、2010年2月むくげ濟州島新春合宿の写真を眺めいたら、半島で見るのは同じような石

人像が有るではないか。日出峰の近くの墓地で撮った写真である。

しかし、よく見ると雰囲気が異なる。望柱石の頭が擬宝珠になっていること、石人が髪を蓄えていること、お地蔵様のような石像が有ることなどなど。墓碑の文字を見ると「近藤家代々之墓」とある。

日本人の墓に半島の石像に似せた日本様式の石像を建てたものである。人騒がせでかつ紛らわしいことである。

今回は各地にある石人像を何点か教えて頂いたので紹介する。

★ 荏原・畠山記念館 ★

(N35.63233,E139.72683)

まず、信長正義さんからの情報。2014年10月に明治学院での公開講座に行かれた際に見つけられたもの。この時の公開講座は大成功だったとのことです。品川駅の近くということだったが、地下鉄浅草線「高輪台駅」と三田線「白金台駅」の間の畠山記念館にある石人像である。『荏原製作所で名をはせた畠山が茶の湯の美術館を開館したことである。』



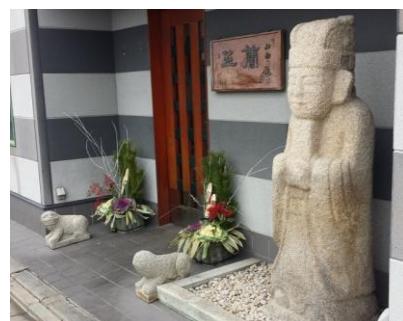
荏原製作所を設立した実業家・畠山一清は、1881年（明治14年）、金沢で能登の守護大名・能登畠山氏の血筋を引く家系に生まれる。東京帝國大学機械工学科を卒業後、1912年に恩師の井口在屋と共同でみのくち式機械事務所を創業した。1920年（大正9年）にはポンプ販売の事業を発展させて荏原製作所を設立したという。エバラポンプと言えばビルなどの汎用ポンプとして広く使われていて、現役の頃は冷凍機共々大いに活用させてもらったものである。

紗帽をかぶった耳の大きい本来1対と思われる文人像である。

★ 京都・大徳寺前の朝鮮料理店「芝蘭」★

(N35.03992,E135.74748)

今年1月にアジア図書館で石人像の講演をさせて



頂いた。石人像を題材とした講演は初めてであり、準備に大わらわだった。信長さんのように大成功とはいかなかつたが、まあ成功だったかなと思っている。この時に準備した資料で先号むくげ通信のメイン論文7頁が書けたようなものである。

多忙な中この講演を聞きに来て下さった藤井幸之助さんから2件の石人像情報を頂いた。一つは京都・大徳寺前の朝鮮料理店「芝蘭」(チラソ)さんの玄関前の朝鮮の石人像と動物像。動物像は小さい1対のようである。

石人はパソコンをかぶった文人像1体である。廻りを綺麗に飾って貰って幸せそうだ。



★ 上六ハイハイタウン書店 ★

(N34.66579,E135.51850)

もう一ヶ所は『上六の書店「ルーブル 1980」さんの店の両脇にたたずむ朝鮮の石人像二体。左の彼、ちょっと肩身がせまそう』というコメントと一緒に写真の提供を受けた。



大きさや帽子から内侍の像と思われるが、帽子の模様が通常の波模様と違い、花のつぼみか何かの三角形が上方に尖っているような形である。多くのお客さんに見てもらえる場所にあって、この2体も幸せものようである。

近いうちに実物を見に行こうと思う。

★ 岡本八幡神社北方 ★

次は山下昌子さんからの情報。

『2月28日トレッキングで朝鮮石人像を2体見つけました。岡本梅林公園付近、岡本八幡神社北方から山道に入るとすぐにありました。お地蔵さんのように赤い涎かけ（？）とニット帽を被せていました。』



地図も一緒に頂いたので、こちらも近々に訪問したい。



て頂く。

「弊社は、朝鮮の石人と呼ばれる石像を多く保有しているのが他社さまとは大きく異なる点かと思います。詳しい年代などはわかっていないのですが、昨日今日削り出したような石像とは違い、長い年月の風化でしか出せない肌合いを持っています。」として10体近くの石人像を持つ造園会社が富山にある。追って紹介する。

(続)